

郷土を知り・学びを深め・発信する

－ 菱地区の自然や文化に触れる体験的な学びを通して －

桐生市立菱小学校

1 はじめに

本校は、明治6年9月、桐生小学校第四分教校として創立し、今年で146年を迎えた。菱地区は、西に桐生川、東に黒川の清流、周囲を緑の山々に囲まれた自然豊かな土地である。泉龍院や普門寺といった市内有数の伝統ある寺院を有し、また、正月を祝う「繭玉飾り」、収穫を祝う「十日夜(とおかんや)」といった伝統的行事を大切にする地域性が今も生きている。

学校教育目標には、「心ゆたかな子」「考える子」「がんばりぬく子」そして「菱町を愛する子」の育成を掲げている。菱地区の貴重な自然や文化遺産といった地域の宝を守り愛でる経験を通して学び、継承する心を育成することで、桐生の次代を担う児童の豊かな情操を育み、「桐生を好きな子供」の育成をしている。

2 概要

本稿では、2年生、3年生、5年生の実践を中心に紹介する。低学年では、生活科を軸に家庭周辺から菱地区全体に視野を広げ、四季折々の自然を感じ、発見することをねらう。中学年では、地域に残る文化や史跡などを深く広く巡り、調べ、教え合うことをねらう。高学年では、自らテーマを定め、より深く調べ、考えをまとめ、発表することを通して、自分の考えを持つことをねらう。年齢を重ねるごとに学びの対象や範囲を広げ、発信する経験、認め合う経験を通し、郷土桐生の魅力を見つけていく。本校では、故郷の誇りは、子供の時期に得た感動や経験に基づくものととらえ、発達段階に応じた学びを教育課程に位置づけている。

3 活動の様子

(1) 「だいすきまちたんけん」(2年生 生活科)

2年生では、菱小学校学区内の公共施設、寺社、商店等を訪問して簡単な体験をしたり働く方に話を聞いたりする経験をする。8つの班に分かれ、各班で選んだ三カ所の目的地まで学校から歩いていく。保護者の協力を得て、各班それぞれに



「菱町駐在所でおまわりさんと」

2名程度の見守りとして付き添って

いただいで学習である。児童は、協力して移動する道中でもたくさんことに気づく。「坂が急だからゆっくり行こうよ」「お寺に初めて入った!」「この店はママとよく来るんだよ」地域に関するそれぞれの児童が持つ知識や経験を共有し、協力したり譲ったり、地域での経験を増やしていく。



「文昌寺本堂を見学」

(2) 菱町かるた大会（3年生 総合的な学習の時間）

3年生では、第17区（菱町）で作成した「菱町かるた」を教材に郷土の文化や史跡、特徴などについて学習をする。菱町かるたは、菱小の児童にとって上毛かるたとともに郷土を知り親しむことに大きな貢献をしている。児童は、かるたに採用された地域の名所を訪れる。2年生で体験した「菱町探検」を経て、目的



「ジャンボカルタにダッシュ」

的な校外学習を行う。調べたことを発表し合い、感想を共有する。学習のまとめとして、12月6日には、本校体育館で、およそ50センチメートル四方の大きさのジャンボかるたを使った菱町かるた大会を行った。この頃には、全44枚を覚え、競技にも熱が入る。興味関心と遊び心を満たしながら、我が町、我が故郷についての学びを深めた児童33名であった。



「(す) ぎ木立 菱の鎮守の 宇都宮神社」

(3) 桐生川・黒川に学ぶ（5年生 総合的な学習の時間）

本校の西300メートル程に流れる桐生川、そして、東400メートル程に流れる黒川。二つの清流を生かし、環境教育の視点から一人一人テーマを決めて調べ学習を行った。桐生川では、「水辺の楽校」と命名された親水広場にて、水生動物の観察をしたり、梅田湖上流との比較観察をしたりした。川の流れに入る



「桐生川に入っでの水生生物観察」

ということは、ほとんどの児童に経験がない。また、図鑑で見るのではなく、生きた水生生物を捕獲することから川の汚染状況についても学んだ。学習は、川作りネットワークきりゅうの会員の方や国土交通省渡良瀬河川事務所職員の方の協力も得て行った。3学期には、体育館でパビリオン形式発表会を行い、学習でお世話になった方々、保護者らを招いて発表を行った。自分の学びを発表にまで昇華できたことへの満足の表情が印象的であった。



「テーマ別学習発表の様子」

4 おわりに

今回実践紹介をしたものの他に、1年生では伝統の正月行事「繭玉正月の会」を地域の老人会の方に教えていただきながら一緒に体験した。4年生は、隣接する県立桐生特別支援学校との交流活動を通して、地域に住む障害者や福祉について体験的に学んだ。6年生は、八木節の学習の中心となって、お囃子や踊りをリードして運動会を盛り上げた。

身近で魅力ある教材としての桐生。経験したこと、学んだことは、次の世代にも引き継がれ、語り継がれていくに違いない。そうなるように、魅力ある学びをこれからも大切にしていきたい。